

3 専門分野

授業科目名	基礎看護総論 I	第一看護学科
	(看護の概念)	1 年次 前期
		1 単位 (30 時間)

I. 授業のねらい・目標

ねらい
看護学の導入として、看護の定義・概念、歴史的変遷、看護専門職の役割・活動、対象者の理解、看護実践を支える法律や制度などを学ぶことで、「看護とは何か」を知り、看護の全体像を理解する。
目 標
1) 人間を身体的・心理的・社会的側面から考え、人間は統一体として存在していることを理解できる。
2) 人間の尊厳について深く考えられる。
3) 専門職としての看護の歴史を知り、看護の専門性を理解できる。
4) 看護と健康の概念が理解できる。
5) 看護の機能と役割が理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	看護を学ぶにあたって	講義・演習	
2	看護の変遷		
3	看護の定義		
4	看護の役割と機能		
5	看護の継続性と連携		
6	看護の対象の理解		
7	看護の対象の理解		
8	健康と看護		
9	健康と看護		
10	健康と看護		
11	専門職としての看護		
12	専門職としての看護		
13	看護の提供の仕組み		
14	看護をめぐる制度と政策		
15	看護における倫理		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 フロレンス・ナイティンゲール著 看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護 日本看護協会出版会 よくわかる看護職の倫理綱領 第3版 照林社 副読本：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会
--

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 基礎看護総論Ⅱ (看護理論・看護倫理)	第一看護学科 3年次 前期 1単位(30時間)
------------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

看護の実践を確かなものにした看護理論とは何かを学び、看護が学問的発展を果たしてきた背景を知る。また、看護実践の基盤となる対象を尊敬し、尊重する態度を体現できる行動を理解できる。

目 標

- 1) 看護理論の意義を理解し、代表的な看護理論について、各理論における看護実践のあり方が考えられる。
- 2) 看護診断およびPOSの基礎理論、活用方法について理解できる。
- 3) 看護倫理について理解し、専門職業人としての役割と責務について考えることができる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	看護理論の意義	講義・演習	
2	主な看護理論家とその歴史的背景		
3	主な看護理論（大理論、中理論）		
4・5	看護理論を読み解く① ②		
6・7	看護診断の意義と活用	講義・演習	
8	POS の意義とその活用		
9	看護と倫理	講義・演習	
10	法的責任と倫理		
11	看護実践における倫理		
12	看護研究における倫理		
13	道徳的ジレンマと倫理的課題		
14	倫理的課題への対応		
15	倫理的看護実践を行うために必要なこと		

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版
よくわかる看護者の倫理綱領 照林社

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 基礎看護方法論Ⅰ－１

(共通技術)

第一看護学科

１年次 前期

１単位（３０時間）

Ⅰ. 授業のねらい・目標

ねらい

看護実践の構成要素である知識・技術・態度を学び、それらをバランスよく身につけ、エビデンスに基づいた科学的実践と患者との相互作用によって創造し、生み出される看護技術のあり方を理解する。

目 標

- １）看護技術の概念が理解できる。
- ２）科学的根拠に基づいた援助技術の必要性とその方法を考えられる。
- ３）原理・原則を踏まえ、対象者の安全・安楽を考慮した基本的な援助技術が実施できる。
- ４）看護に必要な態度について深く考えられる。
- ５）看護技術の習得に向けて主体的に学習に取り組む基本的な姿勢・態度を身につける。

Ⅱ. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	技術概念	講義	
2	観察・記録・報告①	講義	
3	観察・記録・報告②		
4	コミュニケーション①	講義・演習	
5	コミュニケーション②		
6	コミュニケーション③		
7	コミュニケーション④		
8	安全・安楽①安全を守る技術（安全と危険）	講義	
9	安全・安楽②感染予防（スタンダード・プリコーション①）		
10	安全・安楽③感染予防（スタンダード・プリコーション②）	演習	
11	安全・安楽④感染予防（無菌操作①）	講義	
12	安全・安楽⑤感染予防（無菌操作②）	演習	
13	安全・安楽⑥看護技術としての安楽	講義	
14	安全・安楽⑦電法の実際	演習	
15	看護技術習得のための手引	講義	

Ⅲ. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野	基礎看護学〔２〕	基礎看護技術Ⅰ	医学書院
系統看護学講座 専門分野	基礎看護学〔３〕	基礎看護技術Ⅱ	医学書院
根拠と事故防止からみた	基礎・臨床看護技術	医学書院	

Ⅳ. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

Ⅴ. 実習との関連

成績評価要綱第１３条により、この科目を修得しなければ基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。

授業科目名 基礎看護方法論Ⅰ－Ⅱ (環境・活動と休息を整える援助)	第一看護学科 1年次 前期 1単位(30時間)
--------------------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

生命活動と社会活動の両方を営む上で重要となる「環境」に視点をあて、人と環境の関係を理解し、健康的な生活環境を整えるための基礎知識と援助方法を習得する。また、人間が社会生活を営む上で行われる心身の活動により、疲労を蓄積させないよう活動と休息のバランスを考えた行動の必要性とその援助方法を理解する。

目標

- 1) 対象者の日常生活がどのように営まれているか、その目的や意味について考えられる。
- 2) 科学的根拠に基づいた援助技術の必要性とその方法を考えられる。
- 3) 原理・原則を踏まえ、対象者の安全・安楽を考慮した基本的な援助技術が実施できる。
- 4) 看護に必要な態度について深く考えられる。
- 5) 看護技術の習得に向けて主体的に学習に取り組む基本的な姿勢・態度を身につける。

II. 授業計画

Ⅱ. 授業計画			
回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	快適な環境	講義	
2	病室の環境、病床環境を整える技術		
3	ベッドメイキング	講義・演習	
4			
5	臥床患者のシーツ交換	講義・演習	
6			
7			
8	活動・休息の意義	講義	
9	ボディメカニクスの原理・体験	講義・演習	
10	姿勢と体位		
11	安楽な体位保持	講義・演習	
12	体位変換		
13	移乗・移送の実際（車椅子）		
14	移乗・移送の実際（ストレッチャー）		
15	睡眠のメカニズム	講義	

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、技術試験、提出物 等
*筆記試験・技術試験、両方合格することで、単位修得とする。

V. 実習との関連

成績評価要綱第13条により、この科目を修得しなければ基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。

授業科目名 基礎看護方法論Ⅰ－３ (身体の清潔を保つ援助)	第一看護学科 １年次 前期 １単位（３０時間）
----------------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

皮膚と粘膜の保護及び清潔保持に関する生理学的メカニズムを理解し、清潔に関するニーズをアセスメントし、対象に応じた効果的・効率的な援助方法を選択することができるよう、人々が健康な生活を送るために必要な援助を理解する。

目 標

- 1) 対象者の日常生活がどのように営まれているか、その目的や意味について考えられる。
- 2) 科学的根拠に基づいた援助技術の必要性とその方法を考えられる。
- 3) 原理・原則を踏まえ、対象者の安全・安楽を考慮した基本的な援助技術が実施できる。
- 4) 看護に必要な態度について深く考えられる。
- 5) 看護技術の習得に向けて主体的に学習に取り組む基本的な姿勢・態度を身につける。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	身体の清潔の意義・健康障害時の看護	講義	
2	衣生活の意義 衣服の選択 病衣の交換		
3	臥床患者の寝衣交換	講義・演習	
4	臥床患者の部分清拭		
5	臥床患者の部分清拭・陰部清拭		
6	臥床患者の全身清拭		
7	臥床患者の全身清拭		
8	口腔ケア	講義・演習	
9	部分浴		
10	部分浴		
11	臥床患者の洗髪		
12	臥床患者の洗髪		
13	臥床患者の洗髪		
14	臥床患者の洗髪		
15	臥床患者の洗髪		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔３〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、技術試験、提出物 等

*筆記試験・技術試験、両方合格することで、単位修得とする。

V. 実習との関連

成績評価要綱第13条により、この科目を修得しなければ基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。

授業科目名 基礎看護方法論Ⅰ－４ (食事と排泄の援助)	第一看護学科 1年次 前期 1単位 (30時間)
--------------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

人は生命を維持するために必要な物質や栄養素を取り入れ、不必要な物質や有害物質を体外に排出しており、成長・発達し、健康を維持し、生命活動を継続するために必要な食事・栄養や排泄の意義を学び、健康障害によりそれらに制限が加わる人のニーズに対して多面的にアセスメントし、効果的な援助方法を理解する。

目 標

- 1) 対象者の日常生活がどのように営まれているか、その目的や意味について考えられる。
- 2) 科学的根拠に基づいた援助技術の必要性とその方法を考えられる。
- 3) 原理・原則を踏まえ、対象の安全・安楽を考慮した基本的な援助技術が実施できる。
- 4) 看護に必要な態度について深く考えられる。
- 5) 看護技術の習得に向けて主体的に学習に取り組む基本的な姿勢・態度を身につける。

II. 授業計画

Ⅱ. 授業計画			
回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	食事の意義	講義	
2	食事のアセスメント	講義	
3	食事の援助①	演習	
4	食事の援助②		
5	経管栄養法①		
6	経管栄養法②		
7	経静脈栄養法	講義	
8	排尿・排便の意義	講義	
9	排泄のアセスメント	講義	
10	排泄の援助①＜浣腸・摘便＞	演習	
11	排泄の援助①＜浣腸・摘便＞		
12・13	自然排泄を促す援助＜床上排泄・ポータブル＞		
14	排泄の援助②＜導尿、尿道留置カテーテル＞		
15	排泄の援助②＜導尿、尿道留置カテーテル＞		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

*経鼻胃チューブの挿入、導尿または膀胱内留置カテーテルの挿入、浣腸、摘便の技術は学内演習を必須とする看護技術のため、欠課の場合、補習が必要となる。

V. 実習との関連

成績評価要綱第13条により、この科目を修得しなければ基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。

授業科目名 基礎看護方法論 I - 5 (診療の補助技術)	第一看護学科 1 年次 後期 1 単位 (30 時間)
----------------------------------	-----------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

検査や治療の意義や看護師の役割を理解し、対象者の安全・安楽を考慮した目的を達成するための介助方法及び検体の採取方法について理解する。

目 標

- 1) 科学的根拠に基づいた援助技術の必要性とその方法を考えられる。
- 2) 原理・原則を踏まえ、対象の安全・安楽を考慮した基本的な援助技術が実施できる。
- 3) 看護に必要な態度について深く考えられる。
- 4) 看護技術の習得に向けて主体的に学習に取り組む基本的な姿勢・態度を身につける。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	各検査の援助方法	講義	
2	各検査の援助方法		
3	採血演習	演習	
4	与薬時の看護の役割	講義	
5	経口法、直腸内与薬法		
6	直腸内与薬法の実際	演習	
7	注射器具の取扱、注射の準備	講義	
8	皮内・皮下・筋肉内注射法		
9	皮下・筋肉内注射法の実際	演習	
10	静脈内注射法・点滴静脈内注射法	講義	
11	静脈内注射・点滴静脈内注射の実際	演習	
12	医療機器と安全性、心電計	講義・演習	
13	酸素吸入、SpO ₂ 、酸素ボンベ	講義・演習	
14	吸引法①	講義	
15	吸引法②	演習	

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院
根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物

授業科目名 基礎看護方法論Ⅰ－6 (フィジカルイグザミネーション)	第一看護学科 1年次 後期 1単位(30時間)
--------------------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

患者の状態をアセスメントするため、五感のすべてを鋭敏に機能させ、注意深く全身状態を系統的に把握するための観察技術を習得する。

目 標

- 1) 科学的根拠に基づいた援助技術の必要性とその方法を考えられる。
- 2) 原理・原則を踏まえ、対象の安全・安楽を考慮した基本的な援助技術が実施できる。
- 3) 看護技術の習得に向けて主体的に学習に取り組む基本的な姿勢・態度を身につける。
- 4) 人体の構造・機能に関する知識をもとに、問診とフィジカルイグザミネーション(視診・触診・打診・聴診)が正しい手技で実施できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	フィジカルアセスメント概論/バイタルサインとは	講義	
2	体温 外皮系	講義・演習	
3	循環系①：脈の触知 心音	講義・演習	
4	循環系①：脈の触知 心音	講義・演習	
5	循環系②：血圧 触診法 聴診法	講義・演習	
6	循環系②：血圧 触診法 聴診法	講義・演習	
7	循環系②：血圧 触診法 聴診法	演習	
8	呼吸系：呼吸(問診 視診)	講義・演習	
9	呼吸系：呼吸(聴診 触診)	講義・演習	
10	消化系：腹部(問診 視診)	講義・演習	
11	消化系：腹部(聴診 打診 触診)	講義・演習	
12	中枢神経系・感覚系	講義・演習	
13	中枢神経系・感覚系	講義・演習	
14	運動系：MMT・ROM、小脳機能	講義・演習	
15	フィジカルイグザミネーション演習	演習	

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院
 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、技術試験 等

*筆記試験・技術試験、両方合格することで、単位習得とする。

V. 実習との関連

成績評価要綱第13条により、この科目を履修しなければ基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。

授業科目名	基礎看護方法論Ⅱ	第一看護学科
	(経過別・治療別・症状別看護)	1 年次 後期
		1 単位 (30 時間)

I. 授業のねらい・目標

ねらい

各病期（急性期・回復期・慢性期・終末期）にある対象の心身の状態や病状により発現する症状のメカニズムを理解し、対象に応じた援助方法を理解する。また、主な治療に対する対象の心身の変化と援助方法について理解する。

目 標

- 1) 各経過の特徴を理解できる。
- 2) 各経過にある対象者の心理を理解できる。
- 3) 各経過における援助方法を理解できる。
- 4) 手術療法、化学療法、放射線療法、輸液療法、輸血療法における看護の役割と機能を理解できる。
- 5) 対象者の症状に応じた援助を理解できる。
- 6) 指導技術と活用方法について理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	経過別看護とは 指導技術	講義	
2	終末期ケア：グリーフケア、エンゼルケア		
3	治療別看護とは 手術療法を受ける患者の看護①		
4	手術療法を受ける患者の看護②		
5	手術療法を受ける患者の看護③		
6	手術療法を受ける患者の看護④		
7	手術療法を受ける患者の看護⑤		
8	手術療法を受ける患者の看護⑥		
9	輸血療法を受ける患者の看護		
10	化学療法を受ける患者の看護①		
11	化学療法を受ける患者の看護②		
12	放射線療法を受ける患者の看護		
13	痛みのある患者の看護① 痛みに影響する因子・痛みの分類とメカニズム		
14	痛みのある患者の看護② 痛みのアセスメント・薬物療法・痛みに対するケア		
15	発熱のある患者の看護 発熱のメカニズム・原因・熱型・随伴症状・成り行き・看護		

III. 使用テキスト・参考文献

根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 基礎看護方法論Ⅲ (看護過程の展開)	第一看護学科 1 年次 後期 1 単位 (30 時間)
-----------------------------	-----------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

科学的思考、問題解決的思考をもとに、看護の過程における思考の方法を学び、看護専門職者として患者のニーズを満たし、質を保証するケアの提供の技術を習得する。

目 標

- 1) 看護過程が問題解決法であり、看護の目的を遂行する為の手段であることを理解できる。
- 2) 看護過程を進めるにあたっての前提は、人間関係を基本に置くこと、人間を総合的に(全人的)に捉えることであることの意義を理解できる。
- 3) 看護過程の構成要素をアセスメント、計画、実施、評価、修正の5段階であることを理解し、構成要素をそれぞれについて理解できる。
- 4) POSについて理解し、記録方法の一つであるSOAPの概念と書き方を理解できる。
- 5) 対象者の健康障害をアセスメントする為の方法を理解できる。
- 6) 対象者の健康を維持・回復・増進する為の看護援助の計画が立案できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	構成要素1：情報の分類、整理	講義・演習	
2	構成要素1：アセスメント①情報の分析、解釈		
3	構成要素1：アセスメント②情報の分析、解釈		
4	構成要素1：アセスメント③情報の分析、解釈、関連図		
5	事例演習説明、VTR視聴		
6	看護過程演習①	演習	
7	看護過程演習②	演習	
8	看護過程演習③	演習	
9	看護過程演習④	演習	
10	看護過程演習⑤	演習	
11	構成要素2：問題の明確化、看護診断	講義	
12	看護過程演習⑥	演習	
13	構成要素3：看護計画の立案、看護目標、期待する結果、具体策	講義	
14	看護過程演習⑦	演習	
15	構成要素4：実施、構成要素5：評価	講義・演習	

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
 患者さんの情報収集ガイドブック 第2版 メヂカルフレンド社
 看護診断ハンドブック 医学書院

IV. 成績評価の方法

課題、提出物 等

V. 実習との関連

成績評価要綱第13条により、この科目を履修しなければ基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。

授業科目名 基礎看護方法論Ⅳ (フィジカルアセスメント)	第一看護学科 2年次 前期 1単位(30時間)
---------------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい 適切なフィジカルイグザミネーションを行い、系統的に患者を観察することで、患者の「状態」を判断し、得られた情報から緊急性の有無や必要なケアを正しく判断するための思考過程を理解する。
目 標 1) フィジカルアセスメントの意義が理解できる。 2) 人体の構造・機能に関する知識をもとにフィジカルアセスメントの根拠となる知識が理解できる。 3) 循環器系、呼吸器系、消化器系、中枢神経系のフィジカルアセスメントが根拠をもとに実施できる。 4) フィジカルアセスメントの結果、正常・異常の判断ができ、結果を記録、報告できる。 5) プライバシーに配慮しながら対象者を尊重した態度で関わるができる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	フィジカルアセスメントの基礎知識	講義	
2	腹痛のある患者のアセスメント	講義・演習	
3			
4	浮腫のある患者のアセスメント	講義・演習	
5			
6	頭痛・意識障害のある患者のアセスメント	講義・演習	
7			
8			
9			
10	呼吸困難・胸部症状のある患者のアセスメント	講義・演習	
11			
12			
13			
14	シミュレーション演習	演習	
15			

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メディカ出版
 フィジカルアセスメントガイドブック 第2版 医学書院
 看護過程に沿った対症看護 第5版 学研

IV. 成績評価の方法

筆記試験 演習参加状況 提出物 等

授業科目名 地域・在宅看護総論Ⅰ (地域の暮らしと健康を守る活動)	第一看護学科 1年次 後期 1単位 (15時間)
--------------------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場で、地域での健康と暮らしを支えるための看護を提供するための基礎的知識を学ぶ。

目 標

- 1) 地域の特徴を知る。
- 2) 地域で暮らしている人を知る。
- 3) 家族の機能と変遷について知る。
- 4) 地域で暮らしている人の健康状態について知る。
- 5) 地域で暮らしている人の健康を守る活動を知る。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	地域と生活	講義 グループ ワーク	
2	地域と生活		
3	地域と生活		
4	地域と生活まとめ、地域在宅看護の背景		
5	地域・在宅看護の基盤（訪問看護）		
6	在宅療養の場における家族のとらえ方		
7	地域で暮らしている人の健康を守る活動（一次予防）（45分）		
8	地域で暮らしている人の健康を守る活動（一次予防）		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論① 医学書院
副読本：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 地域・在宅看護総論Ⅱ (療養する人の暮らしと看護活動)	第一看護学科 1 年次 後期 1 単位 (15 時間)
--------------------------------------	-----------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい 病気や障害を持つ療養者の誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、社会のしくみを理解し、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を理解する。
目 標 1) 地域で療養する人の暮らしを知る。 2) 地域で療養する人の健康を守る活動を知る。 3) 地域でのケアシステムと保健・医療・福祉の連携について知る。 4) 療養する場所の変更への支援を知る。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	地域で療養する障害者の生活と健康を守る活動	講義 グループ ワーク	
2	地域で療養する小児の生活と健康を守る活動		
3	地域で療養する難病の人の健康を守る活動 地域で療養する高齢者の生活		
4	地域で療養する高齢者の健康を守る活動		
5	療養する場所の変更への支援 1 (在宅から施設)		
6	療養する場所の変更への支援 2 (施設から在宅)		
7	継続看護 (外来看護)		
8	地域で療養する人の健康を守る活動：まとめ (45 分)		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論① 副読本：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会	医学書院
--	------

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 地域・在宅看護方法論Ⅰ (訪問看護制度)	第一看護学科 2年次 前期 1単位 (15時間)
-------------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

地域で生活している療養者・家族が希望する生活を支援する訪問看護の制度と、訪問看護師の役割を理解する。

目 標

- 1) 訪問看護の対象者の特徴が理解できる。
- 2) 訪問看護制度について理解できる。
- 3) 訪問看護の役割について理解できる。
- 4) 社会資源の活用における看護師の役割が理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	訪問看護とは、訪問看護の歴史と現状	講義	
2	訪問看護の対象者の特徴		
3	訪問看護制度 1		
4	訪問看護制度 2		
5	訪問看護のサービス内容と役割 1		
6	訪問看護のサービス内容と役割 2		
7	社会資源の活用における看護師の役割		
8	訪問看護の役割 (45分)		

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版
--

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 地域・在宅看護方法論Ⅱ (地域で療養する人への援助)	第一看護学科 2年次 後期 1単位(30時間)
-------------------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい 療養者の健康レベルに応じた、生活ケアと医療的ケアの看護技術の方法を学ぶ。 また、療養者・家族が安心・安全に暮らせるよう、多職種や地域住民と連携する方法を学ぶ。 目 標 1) 在宅で暮らす人とその家族への日常生活援助について理解できる。 2) 在宅で医療機器を使用する人の援助方法について理解できる。 3) 在宅でのリハビリテーションの目的と理学療法士と看護師の連携の実際を知る。 4) 在宅で暮らす人々への危機管理について理解できる。 5) 在宅で終末期にある人への看護について理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	フィジカルアセスメント	講義・演習	
2	住環境、清潔の援助		
3	移動の援助		
4	食事の援助、在宅経管栄養法の援助		
5	在宅中心静脈栄養法の援助		
6	排泄の援助、膀胱留置カテーテルの援助		
7	自己導尿、ストマの援助		
8	CAPD、血液透析への援助		
9	薬物療法への援助		
10	在宅酸素療法の援助		
11	人工呼吸療法の援助		
12	在宅での安全管理、事故予防		
13	在宅での感染予防、災害時の看護		
14	在宅でのリハビリテーション		
15	看取りの看護		

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア	メディカ出版
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術	メディカ出版
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術第2版	医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 地域・在宅看護方法論Ⅲ (訪問看護活動と多職種連携)	第一看護学科 3年次 前期 1単位(15時間)
-------------------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

在宅療養の場における看護活動では、療養者を生活者としてとらえる視点を重視し、フォーマル・インフォーマルなサービスをケアマネジメントしながら多職種と看護を展開していくことを学ぶ。

目 標

- 1) 初回訪問の提供について理解できる。
- 2) 初回訪問における面接技術について理解できる。
- 3) 訪問看護における看護師が行うケアマネジメントについて理解できる。
- 4) 訪問看護時の多職種・多機能連携における看護師の役割について理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	訪問看護が開始されるまで	講義・演習	
2	初回訪問		
3	訪問看護計画		
4	訪問看護場面の実際（訪問時・終了時の挨拶）		
5	訪問看護場面の実際（面接技術）		
6	ケアマネジメント		
7	多職種・多機能連携における看護師の役割		
8	多職種・多機能連携における看護師の役割（45分）		

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア	メディカ出版
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術	メディカ出版

IV. 成績評価の方法

筆記試験、演習課題 等

授業科目名 地域・在宅看護方法論Ⅳ	第一看護学科
(在宅看護活動の実際)	3年次 前期
	1単位(30時間)

I. 授業のねらい・目標

ねらい

病気や障害を持ちながらも、自分の生き方や暮らし方、療養方針やサービス利用について、療養者が主体的に自己決定し、自律した療養生活が営めるよう、療養者・家族のもつ力や強みに着目して看護実践を行うための方法を理解する。

目 標

- 1) 訪問看護の対象の健康と生活について理解できる。
- 2) 訪問看護の対象者と家族の看護上の問題について理解できる。
- 3) 訪問看護の対象者が活用している社会資源について理解できる。
- 4) 訪問看護における看護の意義と役割が理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	事例展開：情報の読み取り①	講義・演習	
2	事例展開：情報の読み取り②		
3	事例展開：アセスメント①		
4	事例展開：アセスメント②		
5	事例展開：アセスメント③		
6	事例展開：アセスメント④		
7	事例展開：看護上の問題点		
8	事例展開：看護目標・看護計画		
9	訪問看護計画の立案①		
10	訪問看護計画の立案②、演習準備		
11	看護の実際①		
12	看護の実際②		
13	看護の実際③		
14	褥瘡ケアの実際		
15	訪問看護の実際		

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア	メディカ出版
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術	メディカ出版

IV. 成績評価の方法

提出物、課題 等

授業科目名 成人看護総論	第一看護学科 1年次 後期 1単位（30時間）
--------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

成人期にある対象の特徴と現代社会において成人がおかれている状況を知り、健康の維持や健康問題に対する支援について理解する。

目 標

- 1) 発達段階と対象をとりまく環境を理解できる。
- 2) 健康と保持増進のための看護について理解できる。
- 3) 対象を看護するときの基本的なアプローチについて理解できる。
- 4) 健康レベルに応じた看護について理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	成人とは、成人期の特徴①	講義・演習	
2	成人とは、成人期の特徴②		
3	成人とは、成人期の特徴③		
4	成人をとりまく今日の状況①		
5	成人をとりまく今日の状況②		
6	健康の保持・増進や疾病の予防に向けた看護 ／成人保健の動向		
7	急性の状態にある人への看護①		
8	急性の状態にある人への看護②		
9	生活機能障害のある人への看護		
10	慢性的な経過をたどる健康障害を有する人への看護		
11	成人期にある人の教育的支援①		
12	成人期にある人の教育的支援②		
13	最期を迎える人への看護①		
14	最期を迎える人への看護②		
15	エンド・オブ・ライフ・ケア<end-of-life care>		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院
副読本：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

I. 授業のねらい・目標

ねらい

呼吸や循環を中心とした疾患や臓器障害、侵襲の大きな手術・外傷などにより、生命の危機状態にある対象者の病態変化を予測し、重篤化の予防や二次的合併症の予防、回復のためのリハビリテーション、心理・社会的ケアを管理・実践するための基礎的知識を学ぶ。

目標

- 1) 急激な身体侵襲により急性期にある対象者の特徴と看護を理解できる。
- 2) 健康状態が急激に変化する疾患及び機能障害について理解できる。
- 3) 手術による機能障害により生活の変容が必要となる対象者とその家族に対する看護を理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	循環機能障害のある対象者の看護 不整脈で検査・治療を受ける対象者	講義	
2	狭心症で検査・治療を受ける対象者		
3	心筋梗塞で検査・治療を受ける対象者		
4	大血管疾患で検査・治療を受ける対象者		
5	心不全で検査・治療を受ける対象者		
6	心臓リハビリテーション看護		
7	急激な生体侵襲により急性期にある対象者の特徴と看護 ①患者、家族の特徴、危機的状態への精神的支援 ②意思決定支援		
8	救急看護、クリティカルケア ①緊急度と重症度のアセスメント ②救急看護・クリティカルケアの基本		
9	栄養摂取・排泄機能障害のある対象者の看護 胃がんで手術を受ける対象者①		
10	胃がんで手術を受ける対象者②		
11	大腸がんの治療を受ける対象者①		
12	大腸がんの治療を受ける対象者②		
13	肝硬変の治療を受ける対象者		
14	肝がんの治療を受ける対象者		
15	直腸がん(人工肛門造設術)の治療を受ける対象者		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 成人看護学〔3〕循環器〔5〕消化器 医学書院

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院

系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 成人看護方法論Ⅱ (生活機能の再獲得を目指す看護)	第一看護学科 2年次 前期 1単位(30時間)
------------------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

突然の事故や疾患あるいは疾患の進行とともに体が自由に動かせなくなった人が急性期を脱し、機能の回復や生活の再構築、社会復帰を目指して心身ともに回復するための支援について学ぶ。

目標

- 1) 生活機能障害がおこる疾患及び機能障害について理解し、生活への影響を考えることができる。
- 2) 生活機能障害のある対象者を理解し、対象者とその家族の看護を理解できる。
- 3) 障害受容および社会復帰への援助が理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	脳・神経機能障害のある対象者の看護 (くも膜下出血・脳出血・脳梗塞・脳腫瘍・高次機能障害) 頭蓋内圧亢進症状のある対象者の看護①	講義	
2	頭蓋内圧亢進症状のある対象者の看護②		
3	意識障害のある対象者の看護①		
4	意識障害のある対象者の看護②		
5	運動・言語障害のある対象者の看護		
6	摂食・嚥下障害のある対象者の看護		
7	感覚機能障害のある対象者の看護 視力障害のある対象者(網膜剥離)		
8	聴力障害のある対象者(慢性中耳炎・メニエール病)		
9	皮膚・鼻腔障害のある対象者(熱傷・鼻出血)		
10	運動機能障害のある対象者の看護 原因と障害の程度のアセスメント		
11	治療を受ける対象者の看護(骨折)		
12	病気や機能障害に応じた看護①(腰椎椎間板ヘルニア)		
13	病気や機能障害に応じた看護②(脊髄損傷)		
14	生活機能障害のある対象者の看護 リハビリテーション看護①	講義・演習	
15	リハビリテーション看護②		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座	成人看護学 [7]	脳・神経	医学書院
系統看護学講座	成人看護学 [10]	運動器	医学書院
系統看護学講座	成人看護学 [12]	皮膚	医学書院
系統看護学講座	成人看護学 [13]	眼	医学書院
系統看護学講座	成人看護学 [14]	耳鼻咽喉	医学書院
系統看護学講座	別巻	リハビリテーション看護	医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 成人看護方法論Ⅲ (ヘルスマネジメントと看護)	第一看護学科 2年次 前期 1単位 (30時間)
----------------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

疾患や機能障害をかかえながら病と付き合うため、再発予防や身体機能の維持・改善を目指した長期的なケアや治療を生活の中で実践し、その人らしい日々の生活を送ることができるよう、対象者の力を高め支えるための支援のあり方を学ぶ。

目標

- 1) 慢性的な経過をたどる健康障害をもたらす疾患及びその特徴が理解できる。
- 2) 慢性疾患を有する人を取り巻く環境、身体・心理的特徴が理解できる。
- 3) セルフマネジメントを促す看護を理解できる。
- 4) 病気とともに生きることを支える看護について理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	内分泌機能障害のある対象者の看護① (下垂体前葉疾患・下垂体後葉疾患)	講義	
2	内分泌調節障害のある対象者の看護② (甲状腺疾患)		
3	内分泌調節障害のある対象者の看護③ (副腎疾患)		
4	排尿機能障害のある対象者の看護① (尿路感染、尿路結石)		
5	排尿機能障害のある対象者の看護② (腎不全、CKD、透析)		
6	排尿機能障害のある対象者の看護③ (膀胱がん)		
7	代謝機能障害のある対象者の看護① (糖尿病)		
8	代謝機能障害のある対象者の看護② (糖尿病)		
9	代謝機能障害のある対象者の看護③ (糖尿病)		
10	身体防御機能障害のある対象者の看護① (膠原病)		
11	身体防御機能障害のある対象者の看護② (アレルギー)		
12	病気とともに生きることを支える看護① (事例検討)	講義・演習	
13	病気とともに生きることを支える看護② (事例検討)		
14	病気とともに生きることを支える看護③ (事例検討)		
15	病気とともに生きることを支える看護④ (事例検討)		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座	成人看護学 [6] 内分泌・代謝	医学書院
系統看護学講座	成人看護学 [8] 腎・泌尿器	医学書院
系統看護学講座	成人看護学 [11] アレルギー・膠原病・感染症	医学書院
系統看護学講座	別巻 がん看護学	医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 成人看護方法論Ⅳ (人生の終焉を迎える対象者への看護)	第一看護学科 2 年次 前期 1 単位 (30 時間)
--------------------------------------	-----------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

疾病が終末像を呈し、治癒を望めない段階にある対象者とその家族の苦痛を最大限緩和することや自分らしく生き抜くこと、自己実現を実感できる支援のあり方を学ぶ。

目 標

- 1) 人生の最期のときを迎える対象者とその家族の自己決定を支える看護が理解できる。
- 2) 取り巻く環境、身体・心理的な変化が理解できる。
- 3) 全人的苦痛への看護が理解できる。
- 4) 喪失と悲嘆の概念および悲嘆への看護が理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	緩和ケアを受ける対象者の看護①	講義・演習	
2	緩和ケアを受ける対象者の看護②		
3	がん患者の治療と看護／化学療法・放射線療法①		
4	がん患者の治療と看護／化学療法・放射線療法②		
5	性・生殖機能障害のある対象者の看護① (子宮がん・卵巣がん)		
6	性・生殖機能障害のある対象者の看護② (乳がん)		
7	性・生殖機能障害のある対象者の看護③ 自己決定を支える看護 (事例検討)		
8	身体防御機能障害のある対象者の看護① (白血病・悪性リンパ腫)		
9	身体防御機能障害のある対象者の看護② (白血病・悪性リンパ腫)		
10	身体防御機能障害のある対象者の看護③ (白血病・悪性リンパ腫)		
11	呼吸機能障害のある対象者の看護 原因と障害の程度のアセスメント		
12	検査・処置を受ける対象者		
13	治療を受ける対象者 (酸素療法)		
14	治療を受ける対象者 (胸腔ドレナージ)		
15	病期や機能障害に応じた看護		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 成人看護学〔2〕呼吸器〔4〕血液・造血器〔9〕女性生殖器 医学書院
 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院
 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 成人看護方法論Ⅴ

(成人教育と教育的支援)

第一看護学科

2年次 前期

1単位 (15時間)

I. 授業のねらい・目標

ねらい

成人期にある対象者の生きてきた時代背景や文化的背景、生活環境、価値観・倫理観等をふまえ、健康障害のある対象者が自らの健康問題に取り組み、課題達成することを支援するための考え方を学ぶ。

目 標

- 1) 成人における自己決定を支える看護を理解できる。
- 2) セルフケアを育むために必要な理論と看護が理解できる。
- 3) セルフエフィカシーの概念と高める看護を理解できる。
- 4) 教育的支援の重要性と必要な概念および学習理論が理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	対象との関係性を結ぶ（ケアリング、エンパワメント） 対象の理解①	講義・演習	
2	看護の必要性を考える（セルフケア理論） 対象の理解②		
3	看護の方向性を考える（自己決定、アドヒアランス） 対象の理解③		
4	理論にもとづいた指導計画① （アンドラゴジー理論、ペダゴジー理論）		
5	理論にもとづいた指導計画② （セルフエフィカシー）		
6	教育的支援の実際および評価①		
7	教育的支援の実際および評価②		
8	まとめ		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 老年看護総論	第一看護学科 1 年次 後期 1 単位 (30 時間)
--------------	-----------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

老年期にある対象の老化理論や発達課題をふまえた特徴を理解し、超高齢社会における社会制度や倫理的課題について学び、老年看護の基本的な考え方を理解する。

目 標

- 1) 老年期とはどのような時期か、高齢者とはどのような時期にある人々かが理解できる。
- 2) 老年期の対象をとりまく保険・医療・福祉における法制度や看護の役割、多職種との連携が理解できる。
- 3) 老年期にある人の死生観について考えることができる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	老年期の理解：老いるということ	講義・演習	
2	老年期の理解：老いを生きるということ		
3	高齢者の社会保障：超高齢化社会の統計的輪郭		
4	高齢者の社会保障：保健医療福祉の動向		
5	高齢者の社会保障：高齢者の権利擁護と社会参加		
6	老年看護のなりたち		
7	高齢者のヘルスアセスメント		
8	身体に加齢の変化とアセスメント①		
9	身体に加齢の変化とアセスメント②		
10	高齢者とのコミュニケーション 高齢者におけるセクシュアリティ		
11	高齢者の生活・療養の場における看護と多職種連携		
12	治療・介護を必要とする高齢者と家族の看護		
13	高齢者と医療安全		
14	災害における高齢者の脆弱性		
15	高齢者のエンドオブライフケア		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論 医学書院
 副読本：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 老年看護方法論Ⅰ (生活機能のアセスメントと看護)	第一看護学科 2年次 前期 1単位(15時間)
------------------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい 高齢者の身体機能の低下が生活する場面にどのような影響を与えるのかを理解し、自律した生活を営むことができるように支援する方法を学ぶ。 目 標 1) 日常生活を送る過程で生じる安全維持への影響因子が理解できる。 2) 高齢者の特徴を考慮した生活を支える看護が理解できる。
--

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	高齢者の生活機能とアセスメント (45分)	講義	
2	高齢者の日常生活の現状とリスク：生活環境		
3	高齢者の日常生活の現状とリスク：活動・睡眠		
4	高齢者の日常生活の現状とリスク：転倒		
5	高齢者の日常生活の現状とリスク：清潔		
6	高齢者の日常生活の現状とリスク：食事		
7	高齢者の日常生活の現状とリスク：排泄	講義・演習	おむつ交換 技術計画表
8	高齢者の日常生活の現状とリスク：排泄		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 老年看護方法論Ⅱ (心身に障害をきたした高齢者への看護)	第一看護学科 2年次 前期 1単位(30時間)
---------------------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい 加齢に伴う身体的・心理的・社会的機能の低下が誘因となって発症する健康障害のメカニズムと看護の視点を養う。
目 標 1) 特徴的な疾患とその看護について理解できる。 2) 認知症高齢者について理解し、必要な看護が理解できる。 3) 健康障害のある高齢者をとりまく人々への支援が理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	健康障害のある高齢者とその家族の理解 疾病の特徴・老年看護の役割	講義	
2	高齢者の疾患の特徴とその看護 ①インフルエンザ・ノロウイルス		
3	高齢者の疾患の特徴とその看護 ②肺炎・結核		
4	高齢者の疾患の特徴とその看護 ③前立腺肥大症		
5	高齢者の疾患の特徴とその看護 ④前立腺がん		
6	高齢者の疾患の特徴とその看護 ⑤骨粗鬆症・骨折・変形性関節症		
7	高齢者の疾患の特徴とその看護 ⑥運動器疾患の看護とリハビリテーション		
8	高齢者の疾患の特徴とその看護 ⑦パーキンソン病		
9	高齢者の疾患の特徴とその看護 ⑧聴覚障害		
10	高齢者の疾患の特徴とその看護 ⑨視覚障害		
11	認知症のある高齢者の理解とその看護 ①認知症とうつ病とせん妄の違い		
12	認知症のある高齢者の理解とその看護 ②それぞれの認知症の病態と要因、治療と援助		
13	認知症のある高齢者の理解とその看護 ③認知機能の評価方法、治療と援助		
14	認知症のある高齢者の理解とその看護 ④認知症の症状・BPSDと生活への影響		
15	認知症のある高齢者の理解とその看護 ⑤権利擁護のための社会的資源		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 老年看護方法論Ⅲ (高齢者の特徴をふまえた看護活動の実際)	第一看護学科 2年次 前期 1単位(30時間)
--	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

老年期にある対象者の健康障害の背景を理解し、健康や生活上の課題、もてる力を把握して、対象者の望む自律した生活へ向かうための看護の方法を学ぶ。

目 標

- 1) 健康障害を、発達段階をふまえて理解できる。
- 2) 手術を受ける高齢者の入院、治療における影響を理解し、必要な看護について考えることができる。
- 3) 理解力や身体・心理状況を配慮した安全安楽に日常生活援助が実施できる。
- 4) 退院支援について理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	老年看護過程の考え方①加齢に伴う機能低下について	講義・演習	
2	老年看護過程の考え方②薬物療法を受ける高齢者の看護		
3・4・5	手術を受ける高齢者の看護①②③(周手術期における事例展開) 対象者の理解		
6	手術を受ける高齢者の看護④(周手術期における事例展開) 看護上の問題の抽出及び統合		
7	手術を受ける高齢者の看護⑤(周手術期における事例展開) もてる力に着目した計画立案、看護目標、期待する結果と具体策		
8	手術を受ける高齢者の看護⑥(周手術期における事例展開) 術後1日目の対象者の理解		
9・10	手術を受ける高齢者の看護⑦⑧(周手術期における事例展開) シミュレーション演習		
11	手術を受ける高齢者の看護⑨(周手術期における事例展開) 実施・評価		
12	セルフケア向上にむけた支援計画①立案 もてる力に着目した計画立案、看護目標、期待する結果と具体策		
13	セルフケア向上に向けた支援計画②実践		
14	高齢者が自分らしい生活を送るための退院指導計画①立案 もてる力に着目した計画立案、看護目標、期待する結果と具体策		
15	高齢者が自分らしい生活を送るための退院指導計画②実践		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 老年看護学	医学書院
系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論	医学書院
系統看護学講座 専門分野 [5] 消化器	医学書院
系統看護学講座 別巻 臨床外科総論	医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 小児看護総論	第一看護学科 2 年次 後期 1 単位 (30 時間)
--------------	-----------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

看護の対象となる子どもの特徴を理解し、より健やかに成長・発達をとげられるよう、社会全体の取り組みや子どもの健康のとらえ方と看護の役割を学ぶ。

目 標

- 1) 小児看護の特徴と理念について理解できる。
- 2) 小児看護における倫理、倫理的問題を理解できる。
- 3) 子どもの特性、発達過程や評価の方法について理解できる。
- 4) 子どもの日常生活の世話と看護の実際について理解できる。
- 5) 子どもを取り巻く環境について理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	小児看護の特徴と理念	講義・演習	
2	小児看護における倫理、倫理的問題		
3	子どもの成長・発達		
4	子どもの成長・発達		
5	子どもの成長・発達		
6	子どもの栄養		
7	各発達段階における特徴、養育と看護 新生児・乳児		
8	各発達段階における特徴、養育と看護 新生児・乳児		
9	各発達段階における特徴、養育と看護 幼児・学童		
10	各発達段階における特徴、養育と看護 幼児・学童		
11	各発達段階における特徴、養育と看護 思春期・青年期の子ども		
12	家族の特徴とアセスメント		
13	子どもと家族を取り巻く社会		
14	子どもの状況に特徴づけられる看護 災害時の子どもと家族の看護		
15	子どもの虐待と看護		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
副読本：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会

IV. 成績評価の方法

レポート、筆記試験 等

授業科目名 小児看護方法論 I (特徴的な疾患の理解)	第一看護学科 2 年次 後期 1 単位 (15 時間)
--------------------------------	-----------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい 主な疾患や小児保健医療の課題である事故・外傷の病態・症状・診断・治療について、子どもの成長・発達といった特徴をふまえて学ぶ。
目 標 子どもに特徴的な疾患の症状、治療、検査について理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	染色体異常、新生児疾患	講義	
2	感染症、アレルギー、膠原病、リウマチ		
3	代謝異常、内分泌疾患		
4	呼吸器疾患、循環器疾患		
5	消化器疾患、腎疾患		
6	血液・造血器疾患、悪性新生物		
7	脳神経疾患、皮膚疾患、精神疾患		
8	事故・外傷、虐待		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 小児看護方法論Ⅱ (状況に応じた子どもと家族の看護)	第一看護学科 2年次 後期 1単位(30時間)
-------------------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

病気や障害をもつ子どもやその家族が体験する不安やとまどいを知り、治療や療養上の体験を共有することで適切な支援につながるよう、子どもの健康問題の経過やかかっている状況、症状からみた看護を学ぶ。

目 標

- 1) さまざまな健康レベルや状況に応じた子どもの看護が理解できる。
- 2) 家族への看護の必要性和実感が理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	病気・障害をもつ子どもと家族の看護	講義・演習	
2	入院中の子どもと家族の看護 外来における子どもと家族の看護		
3	子どもにおける疾病の経過と看護		
4	症状を示す子どもの看護		
5	症状を示す子どもの看護		
6	症状を示す子どもの看護		
7	子どものアセスメント コミュニケーション、バイタルサイン、身体測定、身体的アセスメントの方法		
8	子どものアセスメント コミュニケーション、バイタルサイン、身体測定、身体的アセスメントの方法		
9	プレパレーション		
10	検査・処置を受ける子どもの看護		
11	検査・処置を受ける子どもの看護		
12	子どもの救命処置、事故・外傷と看護		
13	医療的処置が必要な新生児の看護		
14	在宅療養中の子どもと家族の看護		
15	障がいのある子どもと家族の看護		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論小児臨床看護総論 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、課題、提出物 等

授業科目名 小児看護方法論Ⅲ (疾患に罹患した子どもとその家族の看護)	第一看護学科 2年次 後期 1単位 (30時間)
--	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい 病期ごとに特徴的な経過や症状、治療過程に応じた看護の必要性を理解し、支援のあり方を学ぶ。
目 標 1) 子どもに特徴的な疾患の看護が理解できる。 2) 状態に応じて必要な看護援助が理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	事例1：気管支喘息患児の看護	講義・演習	
2	事例2：1型糖尿病患児の看護		
3	事例3：ファロー四徴症患児の看護		
4	事例4：ネフローゼ患児の看護 アセスメントの視点、看護の考え方		
5	事例4：ネフローゼ患児の看護 アセスメントの視点、看護の考え方		
6	事例4：ネフローゼ患児の看護 アセスメントの視点、看護の考え方		
7	事例5：川崎病患児の看護 アセスメントの視点		
8	事例5：川崎病 関連図		
9	看護過程：川崎病 (看護演習) アセスメント、問題点の抽出、計画立案		
10	看護過程：川崎病 (看護演習) アセスメント、問題点の抽出、計画立案		
11	看護過程：川崎病 (看護演習) アセスメント、問題点の抽出、計画立案		
12	技術演習 (バイタル測定演習)		
13	技術演習 (検温シミュレーション)		
14	プレパレーション演習		
15	プレパレーション発表		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、レポート、提出物、看護過程、演習発表 等

授業科目名 母性看護総論	第一看護学科 2年次 後期 1単位（30時間）
--------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

女性の持つ身体的特性とそれぞれの時代や文化・社会の影響を受けて変化する母性行動を理解し、女性が母性として健康的に成熟しその人なりに次世代の健全育成のために発揮できるよう支援する方法を学ぶ。

目 標

- 1) 生命誕生と生命倫理について、医療の発達や社会的背景の変化を踏まえて考察することができる。
- 2) 母性看護を考える上での基盤となる概念が理解できる。
- 3) 母子保健活動や法制度、現代家族の現状と課題を理解し、看護職としての役割を考えることができる。
- 4) ライフサイクル各期の身体的・心理的・社会的変化とその特徴が理解できる。
- 5) ライフサイクル各期に必要な保健指導、健康障害時の看護について理解できる。
- 6) 現代の性と生殖を取り巻く現状と課題、看護師の役割が理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	対象理解の基盤となる概念 リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーション	講義	
2	リプロダクティブヘルス/ライツに関する世界・日本の動向		
3	性の健康、生殖補助医療、生命倫理		
4	母性・父性・親性の発達、母子関係と愛着		
5	母性看護の歴史的変遷と現状、周産期医療のシステム		
6	子育て支援に関する施策の活用		
7	子育て支援に関する施策の活用		
8	母子保健法に関する施策の活用		
9	母性看護にかかわる施策		
10	母子保健統計		
11	生殖に関する生理、性周期		
12	思春期の健康と看護		
13	成熟期の健康と看護		
14	更年期の健康と看護		
15	老年期の健康と看護		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院
副読本：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会

IV. 成績評価の方法

筆記試験、レポート、提出物 等

授業科目名 母性看護方法論 I (周産期にある対象者の理解)	第一看護学科 2 年次 後期 1 単位 (15 時間)
-----------------------------------	-----------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい 妊娠期・分娩期・産褥期の身体的変化、心理・社会的変化を理解し、妊産婦及び褥婦、胎児・新生児の健康状態のアセスメントの視点を学ぶ。対象者と新生児および家族それぞれの時期に応じた健康問題について考える。 目 標 1) 妊娠・分娩・産褥における生理と異常について理解できる。 2) 新生児の生理と異常が理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	正常な妊娠の経過 生殖補助医療	講義	
2	正常な分娩の経過 産婦・胎児の健康状態のアセスメント		
3	正常な産褥の経過		
4	新生児の特徴と生理的变化		
5	妊娠期の健康問題（妊娠疾患・多胎妊娠・感染症・妊娠持続期間の異常） 分娩期の健康問題（3要素の異常）		
6	分娩期の健康問題（胎児及び付属物の異常・胎児機能不全・分娩時の損傷） 産褥期の健康問題（産科処置と手術・子宮復古不全・産褥血栓症・異常出血）		
7	新生児の健康問題（低出生体重児・高ビリルビン血症・外傷）		
8	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児の健康問題まとめ		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 母性看護方法論Ⅱ (周産期にある対象者と新生児の看護)	第一看護学科 2年次 後期 1単位 (30時間)
--------------------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

妊産褥期にある対象者と胎児・新生児の健康の保持・増進のために、健康診査をふまえて妊産褥婦のセルフケア能力を高める支援を理解する。

目 標

- 1) 正常な経過の妊産褥婦と新生児への看護が理解できる。
- 2) 異常な経過の妊産褥婦と新生児への看護が理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	妊婦と胎児の健康、生活のアセスメント	講義	
2	妊婦と家族への看護		
3	妊娠期の健康問題（妊娠疾患・多胎妊娠）に対する看護		
4	妊娠期の健康問題（感染症・妊娠持続期間の異常）に対する看護		
5	産婦の健康と生活のアセスメント		
6	産婦と家族への看護		
7	分娩期の健康問題（3要素の異常・胎児及び付属物の異常・胎児機能不全・分娩時の損傷）に対する看護		
8	褥婦の健康のアセスメント		
9	褥婦の生活のアセスメント		
10	褥婦の家族への看護		
11	産褥期の健康問題（産科処置と手術）に対する看護		
12	産褥期の健康問題（子宮復古不全・産褥血栓症・異常出血）に対する看護		
13	新生児の健康と生活のアセスメント		
14	新生児と家族への看護		
15	新生児の健康問題（低出生体重児・高ビリルビン血症・新生児外傷）に対する看護		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 母性看護方法論Ⅲ (周産期にある母子への看護)	第一看護学科 2年次 後期 1単位 (30時間)
----------------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい 妊産褥婦とその家族におけるセルフケア不足や身体的変化に伴うニーズへの援助、育児技術指導や家族関係の再構成に向けてのサポートなど看護職として必要なかわりについて学ぶ。
目 標 1) 妊娠、分娩、産褥の一連の流れを踏まえたアセスメントができる。 2) 母子とその家族への看護を考えることができる。 3) 母子とその家族に必要な看護技術を習得することができる。 4) 母子とその家族に必要な保健指導が理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	事例の理解・思考(看護過程) 妊娠期	講義／演習	
2	事例の理解・思考(看護過程) 分娩期		
3	事例の理解・思考(看護過程) 産褥期		
4	事例の理解・思考(看護過程) 産褥期		
5	事例の理解・思考(看護過程) 新生児		
6	事例の対象者に必要な看護(看護過程) 看護目標		
7	事例の対象者に必要な看護(看護過程) 看護計画		
8	事例の対象者に必要な看護(看護過程) 実習目標		
9	看護技術 観察技法、看護技術	演習	
10	看護技術 新生児の清潔援助技術		
11	看護技術 新生児の清潔援助技術		
12	看護技術 沐浴技術チェック パンフレット作成		
13	保健指導 計画立案	演習	
14	保健指導 計画立案・実施の準備		
15	保健指導 実施(ロールプレイ)		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、グループワーク作成物・参加状況の総合的評価

授業科目名	精神看護総論	第一看護学科 2年次 後期 1単位（30時間）
-------	--------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

心の健康をふまえ、精神の健康の維持・増進のために必要な知識を学び、精神保健医療福祉に関する法律・制度の変遷と精神看護の役割を理解する。

目 標

- 1) 心の健康とその基盤となる理論が理解できる。
- 2) 精神医療や権利擁護の変遷をふまえ、法律や制度が理解できる。
- 3) 行動制限と看護について理解できる。
- 4) 精神障害者の地域生活を支える制度と職種が理解できる。
- 5) リエゾン精神看護が理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	心の健康	講義	
2	防衛機制		
3	心の健康と危機理論		
4	ストレスと対処 災害と精神保健		
5	諸外国における精神医療の歴史		
6	日本における精神医療の歴史		
7	精神保健福祉法		
8	権利擁護		
9	精神医療における入院環境		
10	行動制限		
11	精神保健福祉に関する法律 (心神喪失者等医療観察法、自殺対策基本法)		
12	行政の役割：精神保健福祉センターの役割と活動内容		
13	障害者総合支援法に基づくサービス		
14	地域生活を支えるサービスに関わる職種と役割		
15	リエゾン精神看護		

III. 使用テキスト・参考文献

精神看護学Ⅰ・Ⅱ 南江堂

副読本：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、グループワーク作成物・参加状況の総合的評価

授業科目名 精神看護方法論Ⅰ (精神障害のある対象者の理解)	第一看護学科 2年次 後期 1単位(30時間)
-----------------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい 主な精神疾患の病因、症状、経過、検査と治療を学び、精神障害のある対象者への理解を深める。
目 標 1) 精神疾患について理解できる。 2) 精神科における治療が理解できる。

II. 授業計画

回	授業内容	講義・演習	備考
1	精神科医療について	講義	
2	精神疾患の診断・分類		
3	精神症状と状態像		
4	精神科治療学		
5	自殺・自傷		
6	摂食障害、精神発達障害		
7	気分障害		
8	統合失調症		
9	認知症		
10	神経性障害、精神作用物質関連障害		
11	リエゾン コンサルテーション		
12	精神療法、心理教育		
13	認知行動療法		
14	認知行動療法		
15	集団精神療法 生活技能訓練		

III. 使用テキスト・参考文献

精神看護学Ⅰ・Ⅱ 南江堂

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物等

授業科目名 精神看護方法論Ⅱ (精神障害のある対象者への看護)	第一看護学科 2年次 後期 1単位 (15時間)
------------------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい 精神を病む人が抱える精神症状や状態像を理解し、入院治療及び社会復帰にむけた看護活動の実際と地域で生活する療養者とその家族への支援が理解できる。
目 標 1) 精神症状や状態像への看護が理解できる。 2) 入院治療における回復のプロセスと看護が理解できる。 3) 精神障害者の地域生活を支えるための看護が理解できる。

II. 授業計画

回	授業内容	講義・演習	備考
1	精神症状、状態像における看護：うつ状態、躁状態、依存	講義	
2	精神症状、状態像における看護：幻覚妄想、暴力		
3	精神症状、状態像における看護：不安、強迫症、拒否		
4	入院患者への退院支援 家族への看護		
5	長期入院患者への退院支援		
6	ストレングス リカバリー		
7	地域生活を支える訪問看護		
8	地域生活を支えるデイケア		

III. 使用テキスト・参考文献

精神看護学Ⅰ・Ⅱ 南江堂

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物等

授業科目名 精神看護方法論Ⅲ (精神障害のある対象者への援助の実際)	第一看護学科 2 年次 後期 1 単位 (30 時間)
---------------------------------------	-----------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

精神看護の対象者に適切な看護を展開するために、精神障害者の疾患への受け止め方を理解し、必要な援助関係を構築するための基本技術を理解する。

目 標

- 1) 精神障害が対象の身体と生活に及ぼす影響が理解できる。
- 2) 精神に障害のある対象の健康状態を判断し、対象の力を活かした生活援助が理解できる。
- 3) 精神症状に応じた治療内容と対象への援助が理解できる。
- 4) コミュニケーションを活用した援助関係の構築が理解できる。

II. 授業計画

回	授業内容	講義・演習	備考
1	精神障害者の疾患・治療への受け止め方と看護	講義・演習	
2	信頼関係の基礎作り：観察、治療的コミュニケーション技法		
3	患者－看護師関係の形成		
4	セルフケア理論		
5	精神疾患の事例で看護を展開する：アセスメント		
6	精神疾患の事例で看護を展開する：アセスメント		
7	セルフケア理論		
8	精神疾患の事例で看護を展開する：目標設定、計画立案		
9	精神疾患の事例で看護を展開する：計画立案		
10	精神疾患患者の治療（作業療法）とその看護		
11	精神障害者の治療への理解や治療参加を目指した支援（演習）		
12	精神障害者の治療への理解や治療参加を目指した支援（演習）		
13	プロセスレコード		
14	プロセスレコード		
15	まとめ		

III. 使用テキスト・参考文献

精神看護学Ⅰ・Ⅱ 南江堂

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、グループワーク作成物・参加状況の総合的評価

授業科目名 統合看護総論 I (災害看護・国際看護)	第一看護学科 2 年次 後期 1 単位 (30 時間)
-----------------------------------	-----------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

災害により被害が拡大している状況において、被災者への身体的、精神的、社会的な影響について学び、その防災対策や救護・看護のあり方について理解する。

また、グローバル化が進んだ現代の世界において、国境を越えて広域的に発生している健康問題の現状を学び、国際看護学の取扱う課題について考えを深める。

目 標

- 1) 災害医療の基本・災害看護活動の基本を理解できる。
- 2) 災害時の応急処置について理解できる。
- 3) 災害看護活動をイメージし、実践方法を理解できる。
- 4) 国際社会の現状を知り、看護師としての役割を考える。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1・2	災害医療の基礎知識	講義・演習	
3	被災者特性に応じた災害看護の展開		
4	災害とこころのケア、避難所での看護活動		
5	避難所運営シミュレーション		
6・7	心肺蘇生法・AED	演習	
8・9	災害時の応急処置	講義	
10	包帯法・止血法	演習	
11	国際看護	講義・演習	
12	看護における国際化の視点		
13	国際社会における看護の対象		
14	多様な文化と看護		
15	国際協力活動と看護		

III. 使用テキスト・参考文献

看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学 医学書院
ナースング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版
副読本：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会

IV. 成績評価の方法

筆記試験、レポート、提出物 等

*包帯法・止血法の演習を欠課した場合、補習が必要となる。

授業科目名 統合看護総論Ⅱ (看護マネジメント)	第一看護学科 3年次 前期 1単位(30時間)
-----------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい
看護マネジメントでは、あらゆる対象者に対して安全で安心な良質のケアを提供することを保証することが重要であり、専門職として、看護の質を保証し、維持するための取り組みの実際を理解する。
目 標
1) 看護を提供するために必要なマネジメントについて理解できる。
2) 看護マネジメントに必要な基礎知識や提供するためのシステムを理解できる。
3) チーム医療における多職種との連携・協働について理解できる。
4) 感染管理の基礎的知識を理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	看護管理の基本となるもの 看護管理	講義	
2	看護の基本となるもの 専門職とは		
3	看護師の仕事とその管理 情報の管理、労働管理、看護システム、 看護の質向上、看護と経営、 看護管理に求められる能力、看護職とキャリア		
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12	まとめ		
13	臨床指導者とのグループワーク	演習	
14・15	感染管理	講義	

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 メディカ出版 系統看護学講座 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 医学書院 副読本：国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会
--

IV. 成績評価の方法

筆記試験、レポート、提出物 等

授業科目名 統合看護方法論 I	第一看護学科 3 年次 前期 1 単位 (30 時間)
-----------------	-----------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

看護研究が理解でき、ケーススタディで看護を深めることができる。

目 標

- 1) 看護研究の意義や必要性について理解できる。
- 2) 看護研究の種類やその実際/倫理的配慮について理解できる。
- 3) 文献検索の方法を知り、必要な文献を探すことができる。
- 4) ケーススタディの実施方法を理解し、個人で計画的に取り組むことができる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	研究とは 看護研究とは	講義・演習	
2	研究の種類とそのプロセス		
3	文献検索 文献の読み方		
4	文献検索の実際		
5	ケーススタディとは		
6	研究計画書		
7	ケーススタディのオリエンテーション		
8	看護研究の実際 (ケーススタディの指導日①)		
9	看護研究の実際 (ケーススタディの指導日②)		
10	看護研究の実際 (ケーススタディの指導日③)		
11	ケーススタディ発表①		
12	ケーススタディ発表②		
13	ケーススタディ発表③		
14	ケーススタディ発表④		
15	県下看護学校研究発表会参加		

III. 使用テキスト・参考文献

講師資料

IV. 成績評価の方法

参加状況、提出物

授業科目名 統合看護方法論Ⅱ

第一看護学科

3年次 前期

1単位（30時間）

I. 授業のねらい・目標

ねらい

複数患者を受け持ち、安全な看護を提供するために、知識・技術を統合し、看護を展開する方法について理解できる。

目 標

- 1) 必要な情報を収集することにより、患者の現在の状態に応じた看護を考えられる視点を身につけ、看護業務遂行のためのタイムマネジメントができる。
- 2) 複数患者を受け持ち、同時多重課題への対処が考えられ、行動できる。
- 3) 医療チームの一員としてのマネジメントが理解できる。
- 4) 演習を通して自己学修へ向かうことができる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	ガイダンス	講義・演習	
2	複数患者の情報収集とタイムマネジメント		
3	演習①（複数患者を受け持つ看護場面）： オリエンテーション		
4	演習①：ミニカンファレンス		
5	演習①：検温、SBAR		
6	演習①：まとめ		
7	演習②（多重課題）：オリエンテーション		
8	演習②：演習（その1）		
9	演習②：演習（その2）		
10	演習②：まとめ		
11	統合看護実習に向けて 実習記録の書き方		
12	演習③（臨床場面を取り上げた演習）： オリエンテーション		
13	演習③：演習（その1）		
14	演習③：演習（その2）		
15	演習③：まとめ		

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ①看護学概論 メディカ出版
川村治子著 医療安全ワークブック 医学書院

IV. 成績評価の方法

出席状況、参加状況、提出物

